

取組状況

1. スポーツの裾野の拡大に向けた取組

- マッチングプログラム(9～11月実施予定)
R3目標: 840名参加 (R2参加者数525名)
○ マッチングプログラムⅠ (対象: 年中～小2) 計6回
・親子で運動を楽しむプログラム ※ 東部・中部・西部各2回
○ マッチングプログラムⅡ (対象: 小3～小6) 計4回
・自分にあった競技を見つけるための体力測定や競技体験
※ 東部・西部各1回、中部2回
- くろしおキッズプログラム実施状況 (全18回)
R3目標: 次年度生応募数180名 (R2応募者数167名)
○ 実施回数 (8/10現在)
・4年生5回・5年生4回・6年生5回・中学生2回
○ 実施種目 (8/10現在)
・トランポリン/飛び込み/ライフル射撃/ハンドボール/
ラグビー/知的プログラム/トレーニングプログラム (計7種目)
- 指導者の養成状況 (8/10現在)
○ スタートコーチ養成講習会
資格取得者数54名 (R3目標: 30名)
○ スポーツ医科学関連研修会 (1/15回)
○ 競技別資格取得研修会 (R3目標: 公認指導者数1,400名)
・実施予定競技: バドミントン、軟式野球
○ 障がい者スポーツ指導員 (R3目標: 初級153名、上級20名)
・初級20名 (県東部、12月頃実施予定)
・上級1名: 7～12月 (オンラインセミナー・大阪会場等)

2. 子どものスポーツ環境の充実に向けた取組への支援

- 地域スポーツハブによる子どものスポーツ活動実施状況 (抜粋)
地域スポーツハブ等による地域部活動の受け皿となる取組2件 (R3目標: 4件)
○ 地域スポーツハブ拠点数 令和2年度: 8拠点→令和3年度: 9拠点
○ バドミントン教室 (土佐市 H31年4月～)
・R3年4月より高岡中学校部活動として活動開始 (1名・3回/週)
・年2回程度南国市スポーツハブと共同でバドミントン大会を実施
○ バドミントンサークル (南国市 R3年4月～)
・R3年4月より香長中学校バドミントン部 (男女計28名) の指導者派遣
○ 陸上教室 (室戸市 R元年9月～)
・室戸市内の中学生を対象にした継続的な陸上教室実施 (2回/月)
○ 各種スポーツ体験教室 (宿毛市 R2年度実施・R3年度も実施予定)
・トップレベルの選手からスポーツを学ぶ事ができる教室 (3競技・各4～5回)
- 運動部活動の充実及び継続ができる環境づくり
R3目標: 合同部活動及び地域部活動の実践及び課題解決の方向性の整理
○ 合同部活動の実施に向けた取組の推進
・6競技26チーム (R3.6月末現在)
〔サッカー、バレーボール、ソフトボール、バスケットボール、軟式野球、ハンドボール〕
○ 学校部活動の地域への移行の取組 (地域部活動)
＜スポーツ庁モデル事業＞
土佐町中学校剣道部を地域の指導者が指導する取組
・活動開始時期: R3年7月1日～ ・活動日: 5日/週 (平日4日・休日1日)
・活動場所: 土佐町中学校 ・指導者: 地域の指導者
○ これからの部活動の在り方検討会 (8月31日実施予定)

3. 障害児のスポーツ機会の拡充

- R3目標: 障害者が気軽に参加できるイベント・大会の増加
- 健常者と障害者が一緒に参加できるイベント
○ 地域スポーツハブの取組
・パラスポーツを通じたスポーツ交流事業 (南国市 1月)
○ スポーツJAMフェスタ (10月)
・障害者スポーツ体験プログラム
○ 障害者スポーツ推進プロジェクトの事業 (実施予定)
・交流バドミントン大会 (NPO法人まほろばクラブ南国 1回/年)
- 特別支援学校の外部指導者の活用
○ 特別支援学校バレーボール部への専門指導者の派遣 (南国市・全6回/年)
- 関係団体と連携したスポーツ機会の拡充
○ 土佐市スポーツハブ (実施予定)
・県立障がい者スポーツセンター等と連携した地域の障害児・者対象のスポーツ教室 (8回/年)
○ 障害者スポーツ推進プロジェクトの事業 (実施予定)
・特別支援学校の卒業生や在校生を対象にしたスポーツ体験教室と理解啓発につなげる広報活動 (NPO法人総合クラブとさ 2回/年×8種目)

見えてきた課題

- マッチングプログラムの参加者増に向けた情報発信の強化が必要。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限され、くろしおキッズのモチベーションの低下が見られた。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で指導者講習会の開催が遅れている。

- 各市町村ごとの子どものスポーツ環境やニーズについて詳細な把握が必要。
- 合同部活動の日常的な活動においては、移動面で負担がかかる。
- 学校部活動の地域への移行については、指導者や安全面の確保、生徒や保護者の理解がまだ十分に得られていない。

- 健常者と障害者が一緒に参加できるイベントの参加者増に向けた情報発信の強化が必要。
- 特別支援学校との連携は進んでいるが、特別支援学級の生徒へのアプローチができていない。

課題に対する改善策

- マッチングプログラムの参加者募集に関して、チラシやSNSを活用するとともに、学校やスポーツ団体等の協力を得て、できる限り多くの対象者に情報を提供する。
- くろしおキッズについては、これまで行っている基本的な感染症対策に加え、密にならないようプログラムの工夫をしながら、子どもたちの適性を引き出す魅力あるプログラムを実施する。
- 指導者講習会については、リモートによる講習会の実施や予備日の確保を行う。

- 市町村のスポーツ所管課に対し、各市町村のスポーツを取り巻く環境を把握するための調査を実施。調査内容を基に県内34市町村を訪問 (8月実施)
- 上記で整理した内容を踏まえ、より効果的な施策や支援メニューを検討
- 市町村行政と地域スポーツハブコーディネーターの意見交換の場の設定 (10月実施予定)
- 「これからの部活動の在り方検討会」において、合同部活動及び地域部活動に関する課題の洗い出しや課題解決に向けた対策について協議を進める。

- イベントの参加者増に向けて、チラシやSNSを活用した情報発信を行う。
- 特別支援学級に在籍する子どもへの情報提供の在り方を検討。

R4年度に向けた見直しの方向性

- マッチングプログラムにおける保護者をターゲットにした効果的な広報 (SNS等の活用の工夫)
- くろしおキッズにおける内容の充実及びリモート導入等による安心・安全なプログラムの実施
- コロナ禍でも継続して指導者が養成できる機会の確保

- 地域のニーズに応じた子どものスポーツ活動機会の拡充
- 生徒や保護者、学校、地域のニーズに応じた合同部活動及び地域部活動の推進

- 障害者スポーツセンター、学校、地域の福祉団体等との連携によるスポーツ情報の発信強化及びスポーツ機会の拡充

【整備物品】 PC、モニター、カメラ、スピーカー、マイク、モバイルルーター、プロジェクター、スクリーン、会議用ソフト

【設置施設】 16カ所

■地域スポーツハブ等10カ所

- ①南国市立スポーツセンター ②宿毛市和田体育館 ③土佐清水市立市民体育館 ④土佐市立市民体育館 ⑤室戸勤労者体育センター ⑥野市総合体育館
- ⑦安芸市体育館 ⑧四万十町窪川B & G海洋センター ⑨須崎市立スポーツセンター ⑩安並運動公園

■県立スポーツ施設等6カ所

- ⑪県立障害者スポーツセンター ⑫県立県民体育館 ⑬高知県スポーツ科学センター ⑭県立武道館 ⑮県立弓道場 ⑯県スポーツ課

目標：地域スポーツハブ事業による参加延べ人数（KPI） 単位：人/年

R3	R4	R5	R6	R7
2,400（7月末:確認中）	2,640	2,880	3,120	3,360

取組状況

【主な取組事例】

1.みる

- 少年柔道大会のYouTubeライブ配信
 - ・実施主体：公益社団法人高知県柔道整復師会
 - ・実施日：R3年7月18日(日)
 - ・大会参加者：県内小学生 約100名
 - ・視聴回数：3,913回
- 〔コロナ禍で大会会場での応援ができない中、県民武道館に配置しているリモート機器を活用し大会をYouTubeでライブ配信。〕

2.する

- 障がい者支援施設へのリモートで体操教室の配信
 - ・実施主体：NPO法人総合クラブとさ
 - ・実施日：R3年7月8日(木)
 - ・参加者：18名
- 〔コロナ禍で実施できる運動が限られている中、土佐市立市民体育館と障害者支援施設をリモートでつなぎ「3B体操」を配信。〕

3.ささえる

- SSCサポートスタッフ研修のリモート開催
 - ・実施主体：高知県スポーツ科学センター
 - ・実施日：R3年5月16日(日)
 - ・参加者：SSCサポートスタッフ8名
- 〔コロナ禍で集合研修の実施が難しい中、リモートでSSCサポートスタッフに対する研修を実施。〕

【今後の取組】

- ・高知市の講師と土佐清水市の受講生をつなぐリモートヨガ教室（土佐清水市スポーツハブ） ・南国市の講師と嶺北地域の受講生をつなぐズンバ教室（南国市スポーツハブ）
- ・他市町村（津野町等）と連携したリモート体操教室等（土佐市スポーツハブ）

見えてきた課題

- 設置施設において、より幅広い活用（する・見る・ささえる）がなされるように、操作方法や活用事例を共有するなどの支援が必要。
- 設置施設を所管する団体等の連携による活用を促進するため、連携する場合のルールづくりが必要。

課題に対する改善策

- 設置施設を所管する団体や市町村等に対して、スポーツイベントや大会等における積極的なリモート活用を促進
 - ・設置施設におけるリモートを活用した事例や操作方法が他の施設や市町村等に共有され、さらなる活用につながるよう、設置施設等に対して、月毎の活動事例等の情報を提供。
 - ・リモート会議の積極的な開催により、操作方法や運用方法に関する助言などを行い、設置施設におけるリモート操作方法の習得を促進。
 - ・大学関係者や有識者による取組のブラッシュアップ（設置施設関係者等による定期的な情報交換会の開催）

R4年度に向けた見直しの方向性

■リモートによるスポーツ活動の拡充

- 設置施設へのリモート活用事例のさらなる周知
- リモート機器の整備施設拡大の検討
- リモートによる県外の講師や団体の積極的な活用促進

■効果的なリモート活用に向けた検討・調整

- リモートによるスポーツ参加人口の拡大に向け、複数の施設で連携して活用するためのルールづくり
- 個人情報適切に管理するためのセキュリティ対策の周知
- 県内関係者間の情報共有の徹底

取組状況

1. 戦略的なアマチュアスポーツ合宿等の誘致強化

助成金活用団体9団体（R3目標：135団体）

(1) ターゲットを絞った誘致活動

関係者からのヒアリング及び合宿助成金制度に関する説明

- ・県レスリング協会(4/23) ・中央高校ハンドボール部(4/23)
- ・土佐町企画推進課 カヌー(5/17) ・中央高校女子バスケットボール部(6/9)
- ・須崎市生涯学習課 カヌー(6/21) ・岡豊高校女子バスケットボール部 (6/23)
- ・高知県立安芸中高陸上部 (6/30)

(2) 関西圏を中心とした誘致活動

- ・NTTコミュニケーションズラグビー部（4/1）
- ・近鉄ライナーズラグビー部（4/8）
- ・大阪学院大学ラグビー部（近鉄ライナーズからの紹介）

※上記団体はR3年度の本県での合宿にはつながらなかったが、継続した誘致を実施する。

【参考】	H30	R1	R2	R3
アマチュアスポーツ合宿助成金 利用人数（延べ宿泊人数） ※R3は7月末現在	4,891 (19,210)	4,406 (17,001)	2,364 (11,533)	386 (1,328)

2. 本県の特徴ある自然環境を生かしたスポーツツーリズムのさらなる活性化

(1) 地域の特徴を生かしたスポーツツーリズムの拡充

R3目標：地域の特徴を生かしたスポーツツーリズムを検討する場の設定及びコンテンツの拡充

○意見交換会の実施（第1回:5/27）

本県の自然環境を生かしたスポーツを県内外に発信し、スポーツを軸とした交流人口の拡大を図るため、新たなプラットフォームづくりやビジターと県内スポーツをつなぐ仕組みづくりを行う。

■第1回意見交換会の主な意見

- ・マイスター制度（県内のスポーツを紹介する人材の登録制度）は必要。
- ・紹介する各スポーツの安全面の確保を踏まえて慎重に制度設計する必要がある。
- ・多くの方に協力いただくために、事業スキームを可視化する必要がある。
- ・コーディネート機能については、その必要性や在り方について検討が必要。

●プラットフォームの構築
(県内で楽しめるスポーツ情報の見える化)

●プラットフォームに関連情報を組み込む
<主な関連情報>
・事業者情報 ・ガイドができる人材情報
・宿泊・飲食・文化・歴史等の周辺情報 等

●プラットフォームを活用したPR

(2) 市町村等が新たに開催する自然環境を生かしたスポーツ大会への開催支援

助成対象イベント数3、種目数1
(R3目標：イベント数3、種目数1)

【参考】実施予定イベント

- ・バイクロア（11月） ・ツールド龍馬（11月）
- ・チャレンジライド（11月）

見えてきた課題

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、県内での合宿の減少が見込まれる。
- 新たな合宿の誘致については、主な県立スポーツ施設や高知市周辺のスポーツ施設だけでは受入れに限界がある。

- 地域の特徴あるスポーツツーリズムの拡充について、意見交換会の中で、目指す姿の明確化、資源に見える化するプラットフォームの構築、紹介するスポーツ活動における安全面の確保、コーディネート機能の在り方の検討といった意見が挙げられ、さらに検討が必要。
- 自然環境を生かしたスポーツ大会への開催支援については、種目がサイクリングに限定されている。

課題に対する改善策

- 合宿助成金制度について、市町村や競技団体に対しさらなる周知を図る。
- 県内競技団体等のキーパーソンから得た情報をKVCAや大阪観光局等と情報共有するとともに、積極的な誘致活動を展開する。
 - ・新設したバス利用への助成制度や新規団体誘致のインセンティブ制度等による誘致活動の強化
 - ・県内全域のスポーツ施設や宿泊施設等を組み合わせた合宿の提案 等

- 自然環境を生かしたスポーツツーリズムの意見交換会を継続し、9月末までに事業スキームや目指す姿を明確にする。
- プラットフォームの構築に向けて、地域のスポーツツーリズムの資源の確認を行う。
- 自然環境を生かしたスポーツ大会の開催支援については、新たな大会の掘り起こしや磨き上げにつなげるため、競技団体や市町村にヒアリングや情報提供等を行う。

R4年度に向けた見直しの方向性

■ターゲットを絞った誘致のさらなる強化

- 既存の合宿の継続に向けてR3年度までに合宿を行った団体へのPR活動の実施
- 新たなターゲットの掘り起こしによる新規団体の誘致

■市町村と連携したアマチュアスポーツ合宿の受入れ強化

- 県内スポーツ施設の有効活用

■地域の特徴ある自然環境を生かしたスポーツツーリズムの推進

- 新たなプラットフォームを活用したスポーツツーリズムのプロモーションの展開
- 新たなプラットフォームの拡充に向けた地域の資源の掘り起こし・磨き上げ

■自然環境を生かしたスポーツ大会への効果的な支援の実施

- 補助制度の見直し等による新たな大会開催の促進